教員免許状更新講習「考えて学ぶ情報モラル教育」の実践について

村田　育也
福岡教育大学大学院
ikuyam@fukuoka-edu.ac.jp

教員免許状更新講習選択科目として「考えて学ぶ情報モラル教育」を開講して実践した．前半は，情報モラル教育の課題と，それを解決するために開発した「考えて学ぶ情報モラル教育」について解説する講義を行った．後半は，小冊子教材「むかし話で考えて学ぶ情報モラル」をテキストとして，各話を用いた授業計画を立てて発表する演習を行なった．

1. はじめに

情報モラルを扱った授業で，最も多くみられるのが，相手の情報メディア環境や考え方の違いなどを配慮する「思いやりをもつ」や，著作権法などの「法律を守る」，「個人情報を大切にする」などのように，人の問題として取り上げるものである．この方略は，技術に問題はなく，使う人に問題があるという考え方を基本としており，情報メディアの問題を見落としている．そのため，情報モラル教育としては本質を見誤った方略と言わざるを得ない．マクルーハン(1)によると，メディアには使う人の考え方や行動様式を変えてしまう大きな影響力があり，メディアを使うことによって生じる問題の原因を考えるとき，人の問題よりもメディアの問題の方がはるかに大きい．この解釈で情報モラル教育をデザインするなら，人の問題は扱うが，それよりもメディアの問題を大きく扱う必要がある．

また，マクルーハン(1)は，「メディアの影響を無自覚で従順に受容することによって，メディアは利用者にとって壁のない牢獄となる」とも述べた．スマートフォンを歩きながらや食事しながら使う「ながらスマホ」や，暇さえあれば使い続けるといった「メディアの影響を無自覚で従順に受容する」態度は，子どもを含めた現代人にとって大きな問題となっている．

2. 考えて学ぶ情報モラル教育

「考えて学ぶ情報モラル教育」の目的は，図１に示したように，子どもが「メディアの影響を無自覚で従順に受容する」状態から，「メディアの影響を自覚して自律的に選択する」状態に変えることにある．メディアの影響に対して無自覚な状態を自覚した状態に変えるために，情報メディアの８つの特性「不完全性」「匿名性」「結界性」「劇場性」「個人性」「散漫性」「偏向性」「依存性」を用いて(2)(3)，情報メディアの人に対する影響に気づかせる．情報メディアの影響を従順に受容している子どもたちの現状を，自律的に選択できる状態に変えるために，子どものための哲学（P4C: Philosophy for Children）(4)によって，子どもの発達に合わせて段階的に実現を図る．なお，学習指導要領解説における情報モラルの定義に対応付けると，前者が「考え方」で後者が「態度」にあたり，メディア論に対応付けると，前者が「メディアの問題」で後者が「人の問題」にあたる．

3. 更新講習の実践

3.1 更新講習の概要

本講習は，2018 年 11 月 4 日に表１のように実践した．前半は，これまでの情報モラル教育が情報メディア使用の使い方指導やルール作りを中心に行われていた問題について考察し，その問題を解決するために，子どもの社会性と責任能力の発

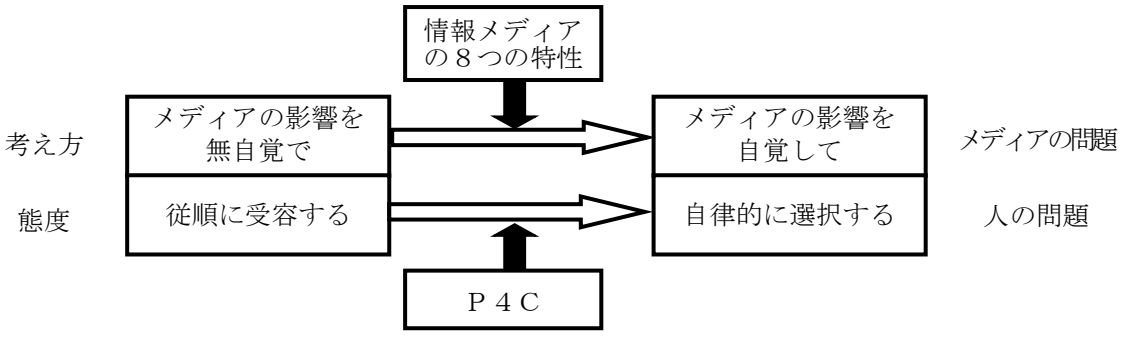

図１　考えて学ぶ情報モラル教育の目的

達の視点と，情報メディア使用が人にどのような影響を与えるのかというメディア論的な視点が必要であることを説明した．後半は，小学校，中学校，高等学校の校種でグループに分かれ，前半の講義内容を踏まえて，情報モラル教育の授業づくり演習を行った．

3.2 情報モラル授業づくり

本講習を計画した当初は1班4人ずつで7班構成の予定だったが，受講希望者が増えたため1班6人ずつ7班に変更して実施した．当日1人欠席のため41人で講習を行った．

テキストとして，情報メディアの８つの特性(2)のうち７つをテーマにした７話から成る小冊子教材「むかし話で考えて学ぶ情報モラル」(3)を用い，各班は表２のように勤務校の校種を優先して班分けした．どの話も，メディアの問題と人の問題の両方を扱うように工夫されている（表３）．

表１　教員免許状更新講習の概要

開始時刻	終了時刻	内　　容
8:40	9:00	受付
9:00	9:10	オリエンテーション
9:10	10:30	情報モラル教育の課題（講義）
10:40	12:00	考えて学ぶ情報モラル教育とは（講義）
12:00	13:00	昼休み
13:00	14:20	情報モラル授業づくり（演習）
14:30	15:50	情報モラル授業づくり（演習）
16:20	17:00	履修認定試験

表２　受講者の班分け（対象校種と人数）

話	タイトル	対象校種	人数
1	暗号のような手紙をもらったら…	小学校	6
2	みんながギュゲスの指輪を持っていたら…	小学校	6
3	秘密を誰かに話したくなったら…	小学校	6
4	自分だけの秘密だと思っていたら…	中学校	6
5	軽い気持ちでいたずらをしたら…	中学校	6
6	みんなが織物を美しいと言ったら…	中学校	6
7	踊りをやめられなくなったら…	高等学校	5

演習の方法は，まず班毎に机に広げた模造紙上に，ブレーンストーミングによって提案する指導内容をポストイットに書き出して並べた．ここで人の問題とメディアの問題の両方が書き出されていることを確認した．次に，それを用いて授業計画を別の模造紙に整理し，最後にそれを用いて発表した．

4. おわりに

考えて学ぶ情報モラル教育に関する講義と情報モラル授業づくりの演習を通して，メディアの問題と人の問題の両方を扱う必要があることは，概ね伝えることができた．しかし，受講者によって本教材に対する理解に差が生じた．授業づくり演習において７班中１班で，理解が不十分な受講者が集まってしまい，具体的な授業計画を考えられなかった．具体的な授業づくりを考えられない受講者のために，ヒントとなる指導事例などを示す必要があった．

謝辞

本研究はJSPS科研費 19H01679の助成を受けたものです．

参考文献

(1) McLuhan, M.: “Understanding Media: The Extensions of Man”, Mcgraw-Hill（1964）
(2) 村田 育也:「人間に対する影響に着目した情報メディアの８つの特性 ー情報モラル教育の視座を決めるためにー」，日本教育工学会研究報告，JSET16-2，pp.141-146（2016）
(3) 村田育也・阿濱茂樹・河野稔・長谷川元洋:「むかし話で考えて学ぶ情報モラル教材の開発 - 情報メディアの特性に着目して -」，日本情報科教育学会第８回研究会報告書， pp.5-8（2017）
(4) Lipman, M. et al.:「子どものための哲学授業 「学びの場」のつくりかた」，河野哲也・清水将吾監訳，河出書房新社（2015）

表３　小冊子教材作成のための要点整理(3)

話.	特性	メディアの問題	人の問題	題材	メディアのアナロジー
1	不完全性	情報メディアを通して情報を受信した者が，自分で情報を補う必要がある	自分勝手に情報を補いがち	木のまた手紙と黒手紙	手紙
2	匿名性	利用者間で本名などを明かすことなく情報を送受信することが容易である	匿名性を誤解したり悪用したりする	ギュゲスの指輪	指輪
3	結界性	周囲と隔絶した閉鎖的な空間があるように思わせる	「ここだけの話」が成立するような気がする	王様の耳はロバの耳	穴
4	劇場性	書き込むだけで劇場（多数の人への情報発信の場）になる	劇場性に気付かなかったり，それを悪用したりする	王様の耳はロバの耳	川の葦
5	個人性	周囲の人の目を気にしないで個人で利用できてしまう	軽率な言動や悪意のある言動をしがち	羊飼いの悪戯	(一人の状態)
6	偏向性	確証バイアスまたはフィルターによって，利用者が触れる情報が偏る	偏った情報に触れているのに，それを多数派（普通）と思う	皇帝の新しい着物	(えりぬきのおとも)
7	依存性	あきさせない，やめられない工夫がされている	無自覚に依存する．自覚しても抜け出せない	魔法の笛	笛